

三重県熊野灘における藻場再生・維持活動



特定非営利活動法人SEA藻、南伊勢町、紀北町、株式会社paramita

実施者：三重外湾漁業協同組合、三重大学藻類学研究室、鳥羽市水産研究所

プロジェクトの概要

藻場は、海中の栄養塩や二酸化炭素(CO_2)を吸収・固定し、酸素を供給するなどの大きな役割を果たしていることから、気候変動対策の一つとして藻場の回復、保全が必要とされています。SEA藻は、本プロジェクトの対象としている三重県熊野灘海域において、ウニ類(ガンガゼ)を駆除することで海藻が増加すると報告(倉島ら、2014)された手法を用い、ウニ類(ガンガゼ)の駆除活動を継続して行い、藻場の再生・維持に取り組んできました。



白浦 2016年5月7日

白浦 2025年5月17日

宿浦 2025年5月23日

引本浦 2025年5月16日

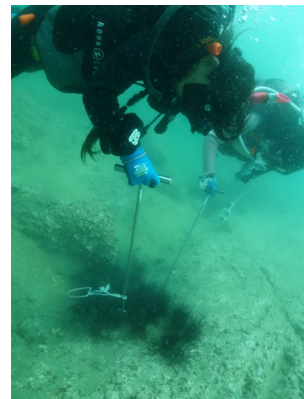
プロジェクトの特徴・PRポイント

SEA藻は南伊勢町、紀北町、三重外湾漁業協同組合、三重大学藻類学研究室、鳥羽市水産研究所と協同で2015年からウニ類(ガンガゼ)の駆除活動を実施してきました。

駆除活動は一般ダイバー、三重大学ダイビングサークル、愛知県立三谷水産高等学校生等のボランティアダイバーの力を借りて実施してきました。その他、海藻の種を出す母藻の設置や芽(種苗)の取り付けを行ってきました。

2025年現在までに、SEA藻は本プロジェクトの実施場所(宿浦、白浦、古和浦、島勝浦、神前浦、引本浦)に加え、合計7地区で同様の活動に関わってきました。

Jブルークレジット活用にあたって株式会社paramitaとも協同し、今後も熊野灘海域の駆除活動を継続することで、藻場の維持・拡大を通じて二酸化炭素(CO_2)吸収量の維持・拡大に寄与していきます。



ガンガゼを食べる
イセエビ



ガンガゼを食べる
イシダイ



アオリイカの卵



繁茂するヒジキ